

No. J2325
国際シンポジウム「台湾出兵・牡丹社事件150年 交錯する日台の視座」
台湾出兵・牡丹社事件研究会 (代表者) 大東文化大学社会学部 教授 野嶋 剛
明治維新後、初の海外派兵となった「台湾出兵」から2024年で150年を迎える。日本と台湾の関係は近年良好な相互感情のもと交流が活発化しているが、日台の「出会い」となる台湾出兵については十分に知られているとは言い難い。歴史的な節目となるタイミングで、東アジア情勢に大きな影響を与えたこの国際紛争に対し、日台、そして沖縄の各当事者が最新の研究成果を持ち寄り、歴史和解にも役立つ建設的な議論を行い、社会に向けて発信することを目指した。 二日間にわたって、台湾や日本各地から招いた第一線の研究者、作家、当事者たちの講演、ディスカッション、質疑、エクスカージョンが活発に展開され、通常の学術シンポジウムの幅を超えた多くの知を結集し、紹介する場となった。当初は二日間で100人程度の参加者を目標にしていたが、二日間合計で170人を超える参加者に集まっていた。17日午後の台湾出兵史跡エクスカージョンも15名程度の参加を予想していたが、40人近い参加となり、急遽大型バスを借り切ることになった。特にこのような歴史に関わるテーマで集客については厳しいとの心配もあったが、事前のメディアに報道、SNSを活用した告知を工夫し、また登壇者に知名度のある人物をお呼びしたことも動員上、功を奏したと考えている。 参加者アンケートによると、当該シンポジウムでは、台湾出兵の当事者双方（日本／台湾）の視点から論じられた点や、歴史学や人類学、ジャーナリスト等の専門家による客観的な分析も提供された点が高く評価された。特に、台湾側や沖縄側の立場や考え方を知ることができた点が良かったとの意見を見受けられた。エクスカージョンについても、通常のシンポジウムにはない取り組みとして参加者には喜んでいただいた手応えがあった。報道については、前述のように幅広く取り上げられ、事前に台湾の中央通信社、NEWSLENS 日本版、Yahoo!ニュースなどで報道され、当日も複数のメディアの取材があった。